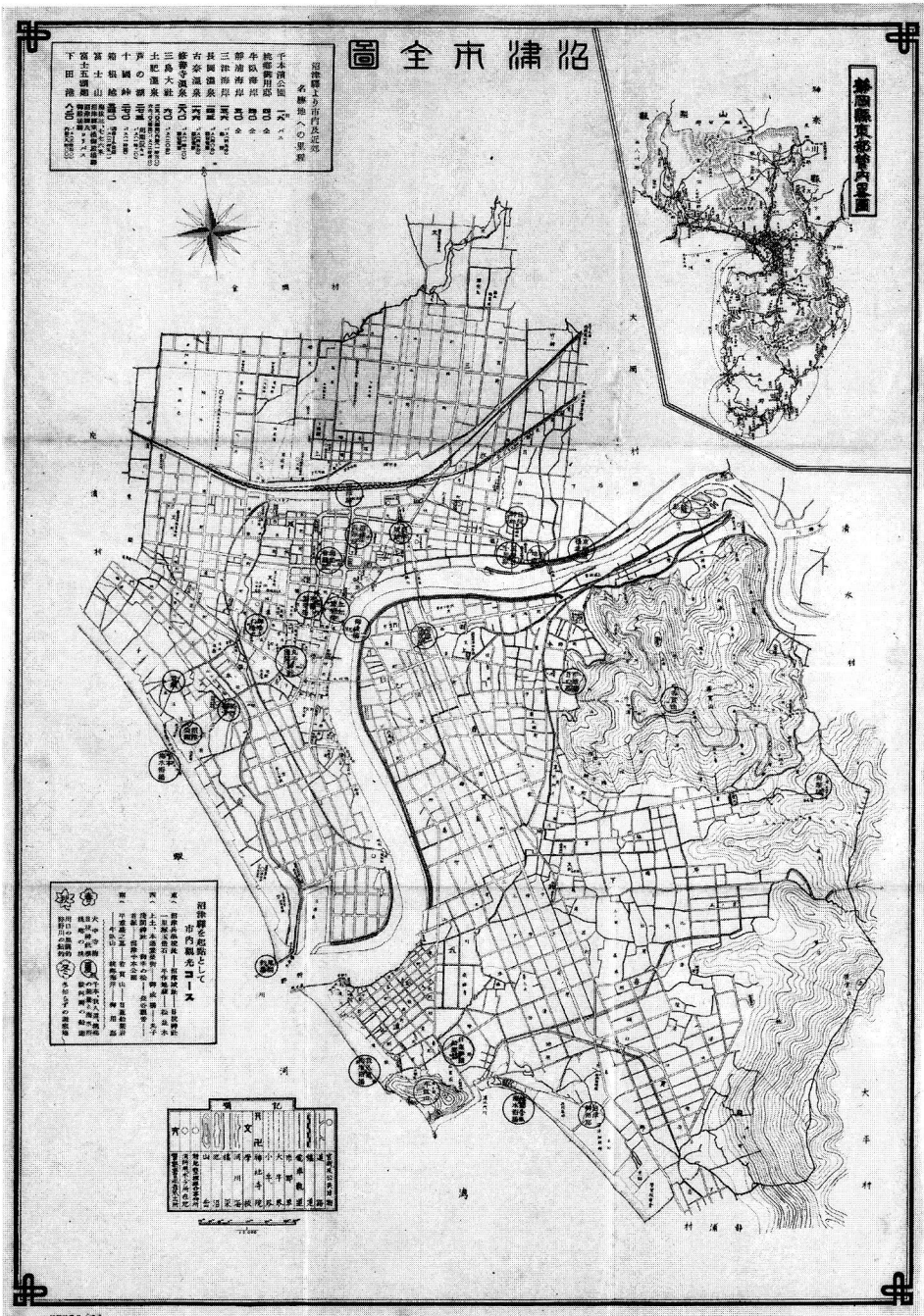


沼津市

明治史料館通信

2003. 1. 25 (季刊 年4回発行) Vol. 18 No. 4 通巻第72号



ぬまづ近代史点描 ⑤③

昭和初期の観光地図

「沼津市全図」(加藤雅功氏所蔵)
 昭和初期 沼津 日進社 印行
 縮尺：1万2千分の1
 縦53cm×横37cm

表紙は沼津市の観光地図であるが、「沼津市全図」に観光名所等を赤丸で囲み、左下の枠内に「沼津駅を起点として市内観光コース」、左上の枠内に「沼津駅より市内及近郊名勝地への里程」を赤字で加え、作製されたものである。

この地図には発行年代が記されていないが、ベースとなった「沼津市全図」が、『昭和十年沼津市勢一班』の折込付図にも用いられ、また、昭和九年十二月に熱海く沼津間が開通した東海道本線が記載されているので、昭和九年以降に作製されたといえる。

昭和初期に観光旅行が盛んになる中、色鮮やかな鳥瞰図を掲載した観光案内のリーフレットなども数多く作られるようになったが、この地図は、市街地図に赤で加筆した二色刷りの地味なものである。しかし、名所等の位置を実際に地図上で確認することができて、実用的なものであったと思われる。左下の「沼津駅を起点として市内観光コース」には、沼津駅から東・西・南方面へ向かう観光コースと、春夏秋冬の季節ごとの名所

が、以下のように記されている。

東へ 沼津兵学校趾―沼津城趾―日枝神社 一里塚玉造石―平作地藏―松並木―西へ 上土、本通繁栄街―御成橋―丸子浅間神社―御幸の松―長谷観音―首塚―沼津千本公園―南へ 平重盛之墓―香貫山―日蓮船繋岩―牛臥山―桃郷海岸―御用邸

春 大中寺梅 日枝神社桜 桃郷の桃／夏 千本、我入道、桃郷の避暑と海水浴 駿河湾の船遊／秋 川口の黒鯛釣 狩野川の鮎釣／冬 冬知らずの避寒地

これより、著名であった海水浴・釣・景観の他にも、当時の史跡・寺社・街並みなどが観光名所となっていたことがわかる。

また、左上の「沼津駅より市内及近郊名勝地への里程」には、千本浜公園・桃郷御用邸・牛臥海岸・三津海岸・長岡温泉・修善寺温泉・三島大社・土肥温泉・芦の湖・十国峠・箱根越などの観光地への距離・交通機関・所要時間が記されており、沼津が観光地であるとともに、伊豆箱根方面への観光の起点であったことがうかがえる。

シリーズ

沼津兵学校とその人材

66

沼津兵学校資業生 渡部四兄弟

沼津兵学校の教授・生徒には、父子・兄弟の組み合わせが何例もある。ここで紹介するのは、兄弟四人がそろって資業生に及第した渡部家の人々についてである。兄弟二人が資業生になったという例は十組あったが、四兄弟というのは実に珍しい(三兄弟の例はない)。

長男渡部当一(旧名虎楠、第二期資業生)、次男渡部当次(旧名楠象、第二期資業生)、三男堀江当三(旧名三喜楠、第八期資業生)、四男渡部万喜楠(第九期資業生)がその顔ぶれである。

長男当一は、明治四年(一八七二)沼津から上京、熊谷県権中属(明治八年時点)、群馬県十三等出仕(十二年時点)、同県五等属(十四年時点)などを歴任した後、宮城県の細倉鉾山の経営に従事したらしい。大正二年(一九一三)二月十七日、六十九歳で没。法名は顕徳院殿当誓書道居士、墓は愛媛県伊予三島市にある。

次男当次は、明治五年の廃校時まで沼津兵学校に残留、陸軍教導団に編入された。以後軍人としての道を歩み、海岸防衛取調委員、参謀本部測量局班長、工兵第四大隊長、築城本部長、工兵会議議員などを歴任し、陸軍工兵大佐で終わった。海岸防衛取調委員は、明治十一年(一八七八)に参謀局の下に設置された、要塞砲台の建設を調査する機関であり、当次は測量課員として、沼津以来の同僚早川省義とともにその委員を十五年(一八八二)の委員会廃止までつとめている(原剛『明治期国土防衛史』、錦正社、二〇〇二年、九八頁)。また、明治十三年から開始された陸軍による全国的な測量にあたっては、第二班長早川省義と並び、第三班長をつとめ、関東地方の地形図作成を行った(前掲原剛著、二七四頁)。十六年からは一等三角測量に携わっている(藤井陽一郎『沼津兵学校とその日本近代

測地事業への影響について、『科学史研究』51、五頁。沼津兵学校の同窓会である沼津旧友会には、兄当一や弟当三とともに、明治十年代から三十年代にかけて出席しており、旧交を温めていたようだ。明治四十二（一九〇九）年五月二十七日没、法名は彰徳院殿当誉武道居士。新聞に掲載された死亡広告には、友人総代として、沼津兵学校の後輩であり同じ工兵科軍人であった渡瀬昌邦が名前を出している（『東京朝日新聞』）。

三男当三は、当時作成の名簿に堀江姓で掲載されているので（樋口雄彦「史料紹介 沼津兵学校人名簿」『沼津市博物館紀要21』、五三頁）、沼津では既に堀江家に養子に入っていたようだ。子孫宅に残された「堀江家先祖代々の霊位」には、堀江重左衛門（慶応元年没）、堀江重太郎（慶応三年没）の名前が記されており、彼らが当三の養祖父・養父だと思われる。少年時代の幕末に撮影した、単独でのものと兄当次と二人での写真が残る。明治五年当次とともに教導団に編入されたが、武官にはならず途中

文官に転じたらしい。明治十四年から十六年頃には陸軍十五等出仕であり、関東地方の迅速測図作成に従事していたことが知られる（『明治前期手書彩色関東実測図 資料編』、一九九二年、財団法人日本地図センター）。明治十年に発足した日本最初の数学の学会、東京数学会社の会員にもなっている。明治二十七年（一八九四）八月二十一日、四十二歳で没、法名は顕真院忠普誠実居士。たぶん亡くなる直前に献金したのだろう、兄当次とともに、沼津兵学校記念碑（明治二十八年建立）の寄付者名簿に名前が残されている。

四男万喜楠は、明治八年（一八七五）二月十九日に若くして亡くなり、法名を高賢院覚養義運居士という。経歴は不明であり、数学が得意だったこと、チフスで死亡したことなどが子孫の伝聞に残されているのみである。

渡部四兄弟の父は、渡部当忠（明治三十七年十月四日没）といった。渡部家の過去帳には伝太左衛門という、近世中期からの祖先の名前が記されている。しかし、その家



軍服姿の渡部当次



侍姿の当次・当三兄弟

※写真はいずれも堀江毅氏提供。陣羽織姿の堀江当三写真は、ガラス板写真である。



陣羽織を着た少年時代の堀江当三



堀江 当三

柄も当忠の経歴もよくわからない。決して高禄の旗本ではなかったようだが、子弟の教育に熱心だったことは間違いないだろう。

当次・当三の履歴は、数学・測量を得意とした沼津兵学校出身者の典型を示している。渡部四兄弟は、学力を抛り所に維新の荒波を乗り切っていた旧幕臣一家であったといえよう。

本稿作成にあたっては、堀江毅・渡部伝太郎・大森華子の諸氏から資料・情報の提供を得た。記して感謝申し上げる次第である。（樋口雄彦）

明治史料館の企画展図録

お知らせ欄

- | | |
|--|---|
| ●浮世絵に描かれた沼津
1987年8月発行 900円 | ●沼津兵学校（再版）
1998年3月発行（1986年8月初刷） 1,000円 |
| ●沼津市域にみる日清・日露戦争
1990年8月発行 1,000円 | ●書にみる沼津の人物 1998年12月発行 500円 |
| ●愛鷹牧 1991年7月発行 1,100円 | ●図説 岳陽少年団 1999年7月発行 1,000円 |
| ●常設展示解説書 ぬまづ江戸時代図誌
1993年3月発行 1,000円 | ●愛鷹山中の謎の遺跡 山居院
2000年7月発行 500円 |
| ●沼津市のなりたち 1993年7月発行 1,100円 | ●興農学園 2000年12月発行 500円 |
| ●写真・史料にみる占領期の沼津
1995年12月発行 1,000円 | ●絵葉書にみる沼津の名所
2001年12月発行 500円 |
| ●近世・近代 ぬまづの俳人たち
1996年7月発行 1,000円 | ●地図が語る沼津の歩み
2002年12月発行 500円 |
| ●レンズに写った沼津 1996年12月発行 1,000円 | ●沼津案内（復刻） 1984年10月発行 200円 |
| ●本のぬまづ人物誌 1998年3月発行 1,000円 | ●沼津之栞（復刻） 1984年10月発行 300円 |
| ●近世・近代 ぬまづの画人たち
1998年7月発行 1,000円 | ●江原素六生誕150年記念絵葉書
1992年7月発行 350円 |

※以上の図録等は、史料館でお求めになれます。

- | | |
|----------------|------------|
| ○沼津の国学 | 1988年7月発行 |
| ○沼津藩の人材 | 1989年8月発行 |
| ○江原素六生誕百五十年記念誌 | 1992年7月発行 |
| ○沼津兵学校の群像 | 1994年7月発行 |
| ○昭和の戦争と沼津 | 1995年7月発行 |
| ○神に仕えたサムライたち | 1997年11月発行 |

※以上の図録は現在品切れとなっておりますので、史料館内でご覧いただくか、必要箇所をコピー（1枚10円）していただく形となります。



◎沼津市歴史民俗資料館企画展
「人形浄瑠璃のかしら」の開催

松長の渡辺光次郎氏により収集され、歴史民俗資料館に寄贈された浄瑠璃人形のかしらを中心に、衣装・道具・上演時の写真など、人形浄瑠璃関係の資料を展示します。

また、内浦重寺の白山神社や江浦の住吉神社で上演された人形三番叟についても、併せて紹介します。

期間…2月8日(土)～6月29日(日)
会場…沼津市歴史民俗資料館
(沼津御用邸記念公園内)

開館時間…午前9時～午後4時

休館日…月曜日・祝日の翌日・月の末日

問合せ…電話 〇五五一

九三二一六二六六

沼津市明治史料館通信 第72号

編集 沼津市明治史料館
発行

〒410-0051 沼津市西熊堂三七二一
電話 〇五五一九二二・三三三三
FAX 〇五五一九二五・三〇一八
http://www.city.numazu.shizuoka.jp/sisetu/meiji/index.htm